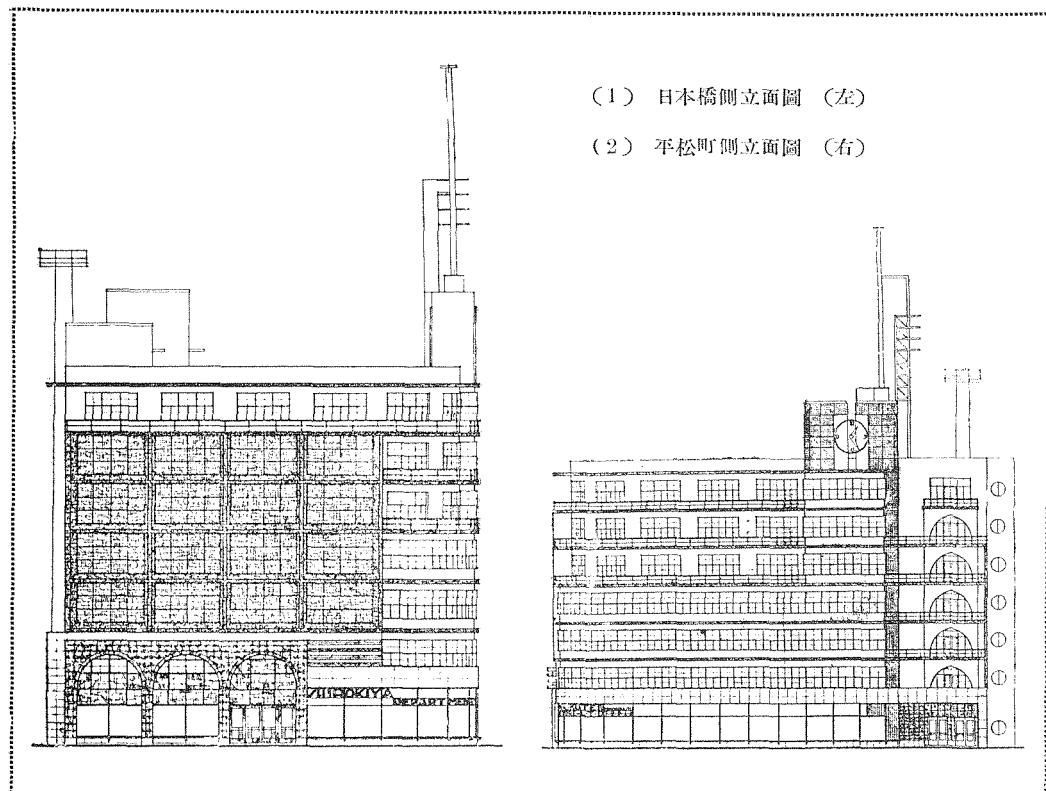


—白木屋建築工事—



を示した日本間の設備があります。

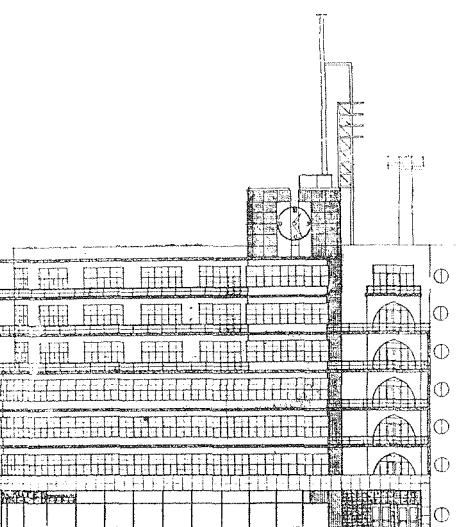
三階には大陳列場を設けて華客の選擇を便にし、四階には美容室より出たお客様のために寫眞室があります。五階は貴賓室と喫煙室、六階は全部『子供の國』として子供用品を始め何事も子供に関する設備一切を整へるこぎになつて居ります。七階には大食堂を出した人々の目に草花を見る様に出来て居りますし、屋上には古來の日本風庭園を設けた中に藤吉稻荷を祠つてあります。

新築の経過

白木屋第一期新築工事は昭和二年九月十六日より起工して翌三年十一月末落成しました第一期工事の敷地面積は五一五坪九八七で、建坪四二二坪、延坪は三九一〇坪四八であります。構造は鐵骨鐵筋コンクリート造で、地上七階地下二階附、高さは地盤よりバラペツ

(1) 日本橋側立面圖 (左)

(2) 平松町側立面圖 (右)



ト上端迄壹百尺無線塔上端迄壹百八十尺あります。

之に從事したる勞力の中、實際現場で働いた延人員は拾壹萬人餘で、當初より參百九拾日の短時日で完成したのであります。

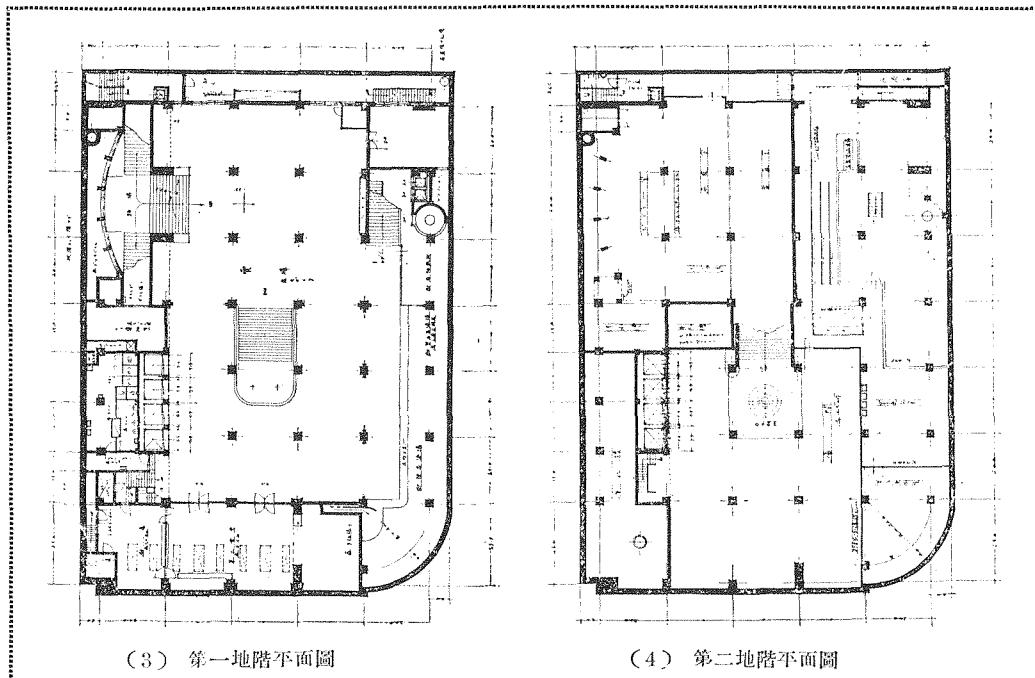
主要材料

所要の鐵骨材料は一千八百三十噸、鐵筋は一千貳百四拾噸、セメント壹萬七千五百樽、コンクリートは千三百五十七立坪、石材は一萬一千平方尺、大理石は七千五百平方尺を要しました。

耐震上の用意

建築は鐵骨鐵筋コンクリートでありまして完全なる耐震耐火構造である上に、一層安全を期する爲め、各階に耐震壁豫防震構法を施しました。之が爲め室内の美觀及賣場面積に

—白木屋建築工事—



大なる犠牲を拂ひました。

床と大理石

更に設備に就て少しく申上ぐれば、先づ第二地下室白木名水廻り及第一階大ホールの床は色彩美しき幾何學的模様モザイツクを敷き詰め、第一地階第二地階及一階賣場には純白のモザイクタイルを、又二階以上の床には最近發明せられました彈力性に富むアスファルトブロックを敷き詰め、七階食堂はLオーフ材のフローリングブロックを以て張り詰めたのであります。大理石は主としてイタリー産のベロナを大ホール廻りに使用し、赤坂産の「遠日鏡」と稱する黒色大理石で縁を取りました。又日本橋入口は同じくイタリーの二十五号、地下室大階段は同十号を前同様黒大理石を以て縁取りをなし、意匠的に色彩を施しました。大階段の踊場床及日本橋入口の床には、やはりイタリー産のボテチームを主材とする美事な大理石モザイクを施しました就中第二地階より七階に至るエレベー

ター前は、赤坂産の遠日鏡と稱する黒色大理石を金目地に張立て、純白の石膏乳レリーフに調和をこりました。

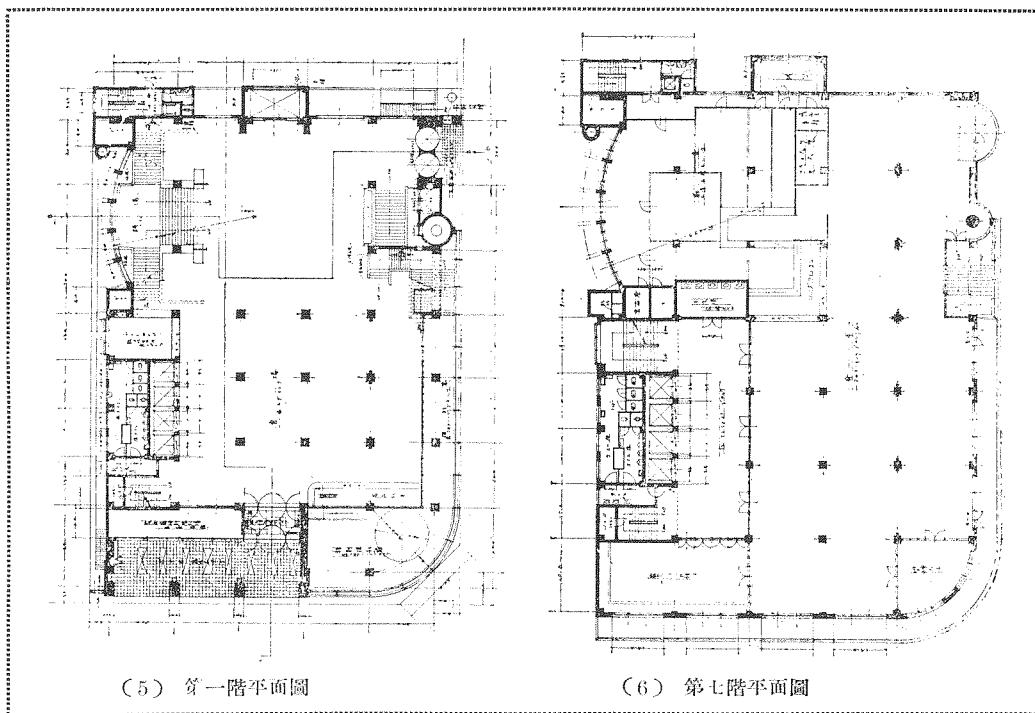
換氣装置

店内の空氣を絶えず清淨にする爲に、六臺の電氣プロペラーファン(總馬力十五馬力)を以て通風及排氣をなし、且つ地下室にはオゾーン發生機により百八十尺の高塔より取入る新鮮なる空氣に、更にオゾーンを加へて店内に放出する設備を完成いたしました。各賣場は毎二十分毎に便所、炊事場等は毎五分毎に全館の空氣をすつかり交替新鮮にいたす仕掛け御座います。

暖房装置

尙嚴寒の折、店内に適當なる温度を保つ爲めローラー式セクショナルボイラー四臺を以て、全館に配置せる放熱器全面積六千五百平方フィートに供給するものであります、真空低圧蒸器暖房装置であります。

—白木屋建築工事—



電　　話

電話は六階に電話交換室を設備し、交換臺二臺を据付け、局線三十本室内線二百對を配置いたしました。外部よりの電話は一應此處にて受付たる上、それぞれの係へ接続いたすことになります。

エレベーター

日本エレベーター會社製最新型昇降機四臺を並べました。各臺約二十五人を收容し、速度は一分間二百呎であります。其扉は同社特製のもので、壓搾空氣の作用を以て自動的に開閉し、一時に五六人相並んで出入するこ事が出来ますのみならず、マイクロドライブ式を申しまして、一定の場所に到着せざれば扉は開きませんから極めて安全であります。尙東側中央には一萬呎の大型エレベーターを新設し、外壁に窓を設け通風並に展望の用に供し、收容人員は五十人以上七八十人迄一

度に昇降するこ事が出来ます、團體の御客様に御便利を存じます。斯様な大型エレベーターは、吾國に於ては當店の設備が嚆矢で御座います。此外店員専用昇降機一臺を非常階段室に設けました。

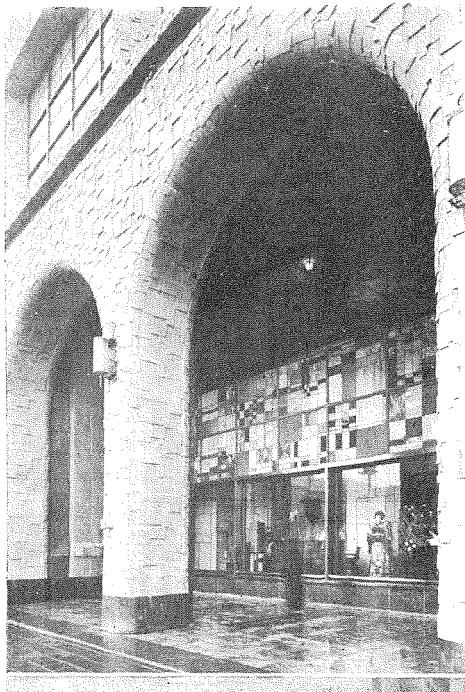
バーチカルコンベヤー
及スパイラルシート

店内の買上品は凡て上バーチカルコンベヤー及スパイラルシートに依り第一地階へ運びます。そして歸途出口先の渡場にて品物を渡す事とし、又届先も受付る様にして居ります。

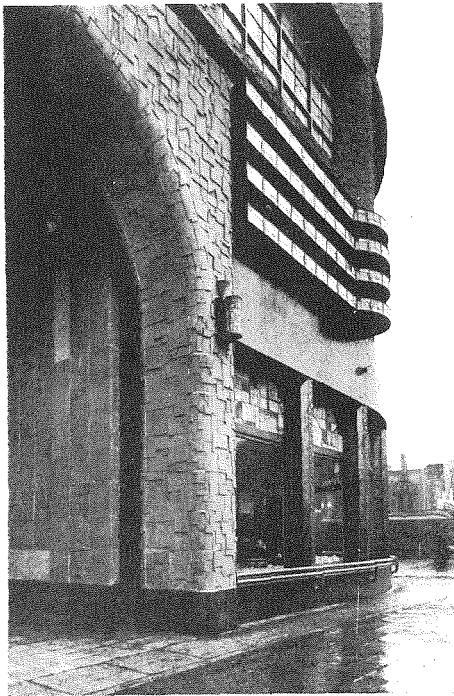
消　火　設　備

消防設備をいたしまして、各階に二三ヶ所適當な位置自動消火器を取り付けました。そのスウキツチを入れゝば、第二地階のポンプが自動的に送水を始めまして、何時何處で火災が起りましても瞬時に消火し得る様設備

—白木屋建築工事—



(7) 日本橋側入口



(8) 日本橋側入口より平松町側角

してあります。

貯水装置

貯水装置といたしましては、市の水道と、及び一晝夜各八千石を湧出する白木名水の鑿井と、この二方面から絶えず屋上の水槽内に三萬ガロンの水を貯藏し、飲料、雑用、防火等に準備してあります。

店内掃除

店内の塵埃を吸集する爲には三十馬力のポンプを使用し、各階數十ヶ所の吸收口により塵埃を吸い取り、之を地下室に設備せるバキュウムタンクに集め、常に店内に不潔不衛生なる塵埃を飛散せしめざる装置であります。

電力設備

店内一ヶ月の電流使用量は十二、三、萬キロであります。東京電燈と市電氣局と兩方から供給を受けてをりますが、尙之だけでは停

電の場合に不完全でありますので、今回英國ラストン會社製三十馬力の發電機を据付け、二十キロワットの電流を立處に得らるゝ設備をいたしました。従つてこの三種の電源に依り、全部の停電は絶対にない事になつて居ります。

屋上庭園

屋上庭園は八階に設けました。街上百尺のところ、北に筑波、西に富士秩父の連峯より南は品川の海を隔てゝ、房總の山々を一望の中に收め、眺望絶佳であります

工事關係者

施主 株式會社白木屋

社長 大村彦一郎

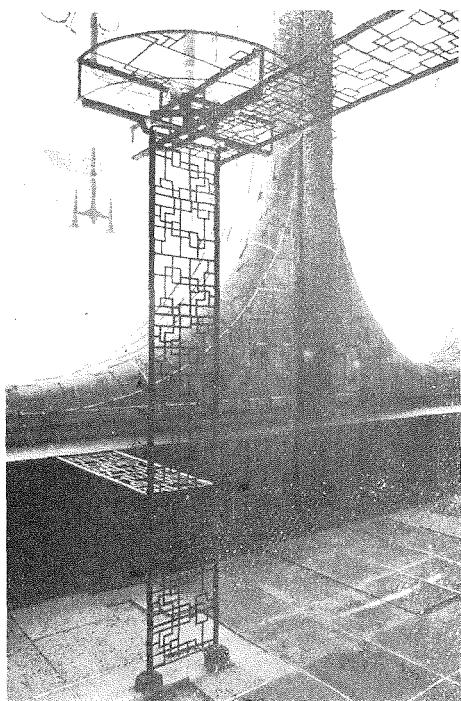
専務取締役 山田 忍三

設計監督 工學士 石本喜久治

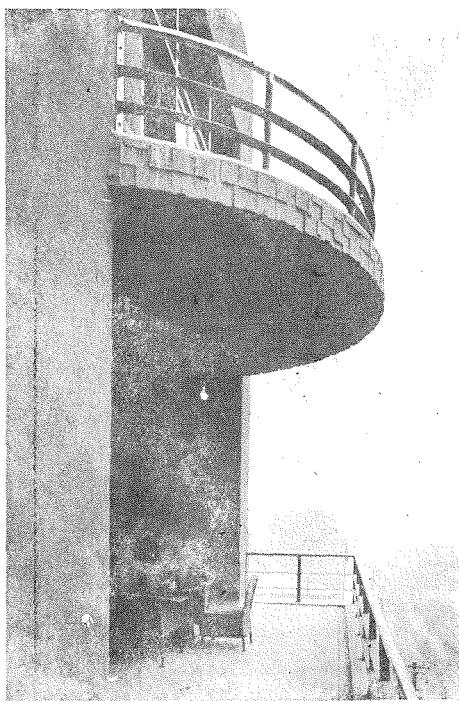
強度計算 工學士 尾崎 久助

(32頁へつづく)

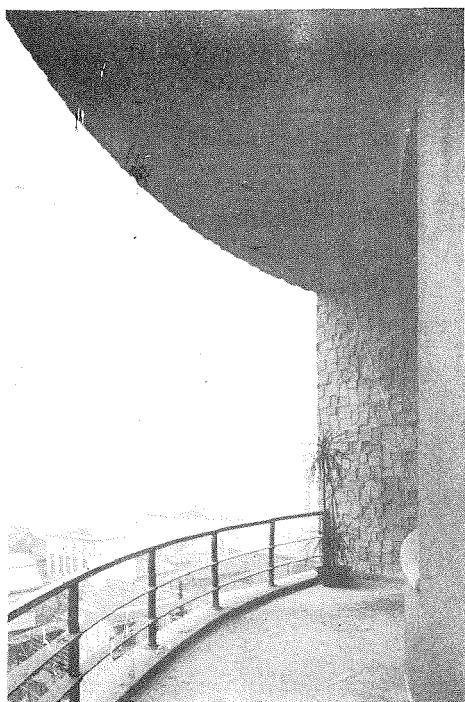
—白木屋建築工事—



(9) 日本橋側大アーチ



(10) 第七階バルコンより京橋方面を望む

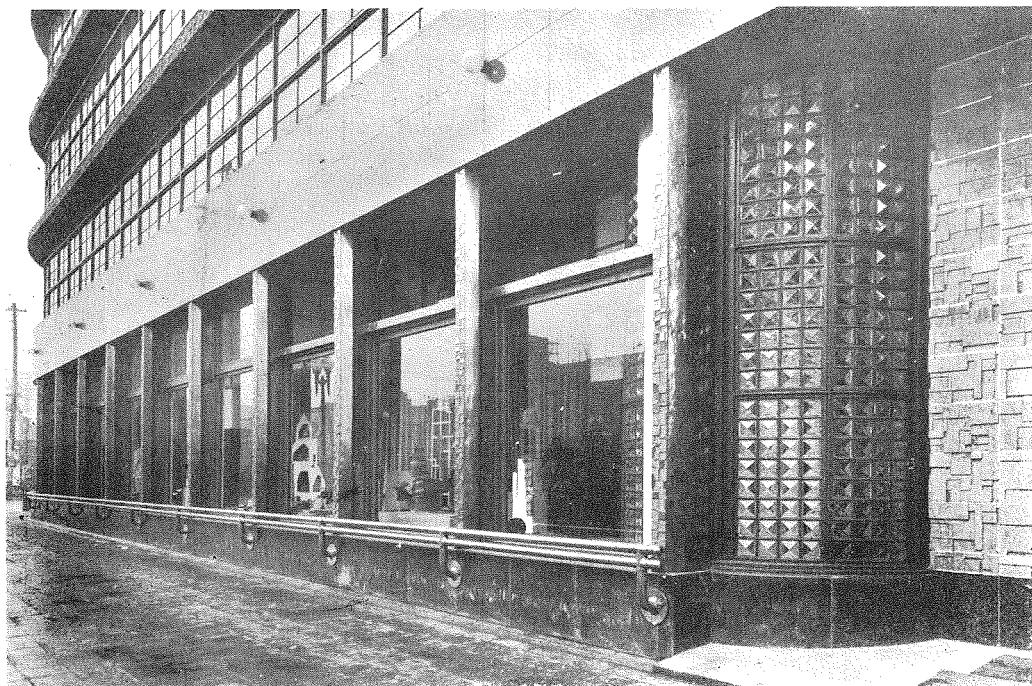


(11) 第七階バルコンより日本橋方面を望む

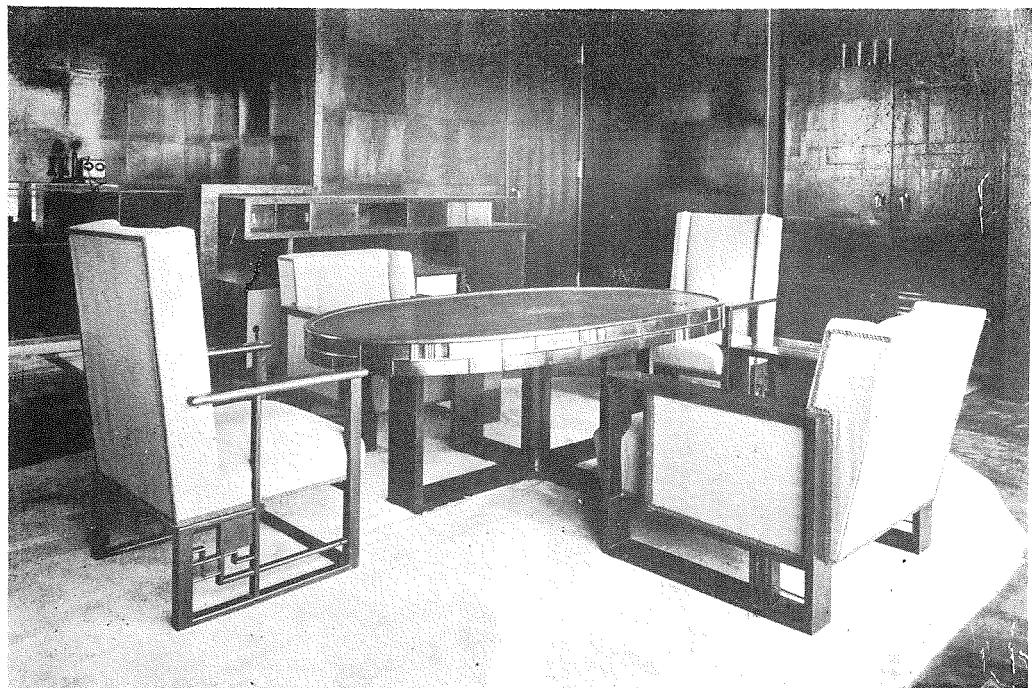


(12) 平松町側より屋上を望む

—白木屋建築工事—



(13) 平松町側裝飾窓



(14) 五階特別應接室